小 春 日 和

広島から銀座に贈り物をお届けします

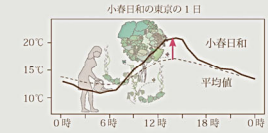
田舎の母から、地元の旧友からの贈り物。いつの時代もどさどさしながら
紐をほどいで包装をあける。包装資材はいつも乱しく捨てられてきた。
秋の空気を包み、緑を包んだ広島からの贈り物。
お点前の心地よさに命が芽吹くぽかぽか陽気の小春日和。

01 Theme 樂わう銀座の小春日和

10月30日の銀茶会は春に近い暖かい空気に包まれます

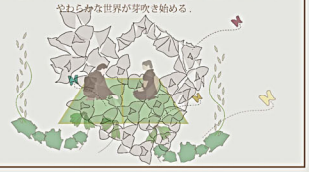
[001] 晩秋から初冬にかけて春のような暖かさに包まれる天気が続くことがある。秋に訪れるこの気候を小春日和という。

晩秋 10/8 — 銀茶会 10/30 — 初冬 12/7



[002] この小春日和には、春の訪れと間違いした植物が芽吹き（帰り花）、生き物たちが飛び交う"樂やか"な世界が広がる。

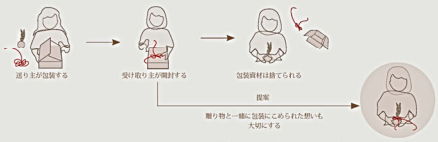
[003] 小春日和に包まれる茶室空間で、点前の心地よさを春と間違いしたようにやわらかな世界が芽吹き始める。



02 Concept 悲しく捨てられる包装資材

私たち日本人は真心こめて贈り物を包む文化を持ちます

送り主の想いをのせた贈り物の包装はいつの時代も受け取り主がわくわくしながらほどいてきた。
しかし時が流れるにつれて、包装資材は無下に扱われることが多くなっている。
そこでどのような提案ができるのか。



捨てられる PP バンド

ホームセンターで実際に見られる悲しい包装資材

PP バンドはポリプロピレンという樹脂からできている。軽量で引張強度の強いPPバンドは大きな建築資材から小物までを包装するのに広く使用されているが、ほどかれた途端に悲しく捨てられる。リサイクルは500m未満に切り分けて束ねる必要があり、可燃ごみとして処理されることが多いのが現状だ。この PP バンドを活用して銀座に茶室をお届けします。

03 Material 素材の特徴を活かす

スタディを通して、PP バンドは大きく２つの特徴を持つことがわかりました

a. 身の回りのプラスチックの中で一番軽く、積層に向く素材

基材	比重
PP（ポリプロピレン）	0.9-0.91
PE（ポリエチレン）	0.91-0.965
PMMA （アクリル）	1.17-1.20
PA（ナイロン）	1.01-1.02
PC（ポリカーボネート）	1.2

軽量なため、積層で空間を構成しても、木や竹よりも構造的な負荷が抑えられる。

編む　折る

日本の編み込みの技法を用いることで、やわらかな風合いを持たせながら、PP バンドの耐力も上げられる。

b. 添加物にガラスフィラーを含み、透明性をもつ素材

PP に含まれる添加物である"ガラスフィラー"は名前の通り、ガラスでできている。このガラスフィラーが PP の透明性や屈折率をコントロールしている。

PP バンドで包まれたお点前はどのように見えるでしょうか？

編んだ PP バンドで包むと、肌の色や緑、空色が柔らかい色となって小春日和の景色を生む。

04 Process 空間を包む折り方を作る

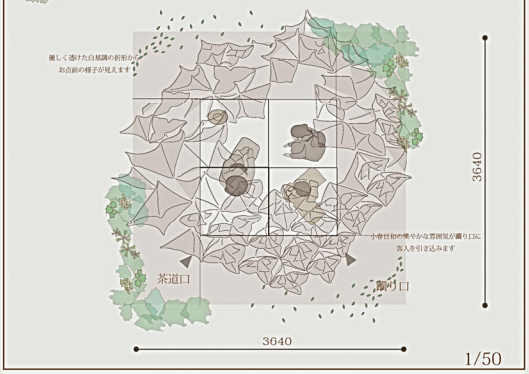
PP バンドを編んだ方形の可能性から強度の高い折り方を探りました

05 Cycle 広島から銀座に小春日和の贈り物

悲しく捨てられる PP バンドで茶室を包み、最後は大切にリサイクルしましょう

06 Plan 平面計画

茶室空間を優しく包みます



07 Plan 断面計画

PP バンドのユニット「折形」で茶室空間を小春日和のように樂やかに彩ります

08 Process 茶室を包み込む形状を決める

お点前を「小春日和の出会いの贈り物」と見立て、包み込むような形状を考えます

２畳の上で亭主と客人の２人が出会う小春日和の茶室空間

この２畳と２人を小春日和の出会いの贈り物と見立てる

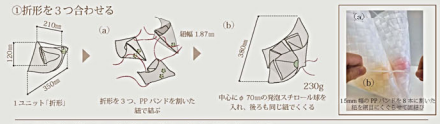
やわらかく出会いの贈り物を包み込む形態を考える

包み込む形を決定する

09 Detail 施工計画とディテール

リサイクルできて、誰でも行える折形を用いた施工方法を提案します

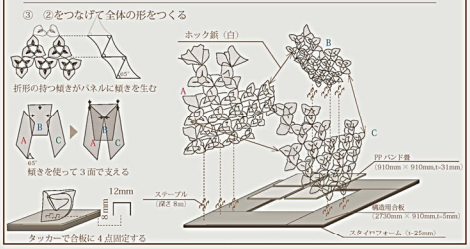
①折形を３つ合わせる



② ①を互い違いにつなげて３枚のパネル ABC をつくる

ホッタ鋲で４か所留める
（十字に留めて折形同士のぐらつきを抑える）

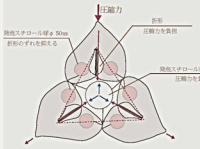
③ ②をつなげて全体の形をつくる



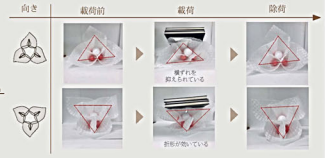
10 Study "折形"の圧縮実験

最下段にある折形が最大荷重で圧壊しないかを確認します

構造に加わる荷重を折形が負担できるように３つ組み合わせる。その中央にφ 70mの発泡スチロール球を入れ、トラスで荷重を負担する。



折形を３つ合わせた重量が 230 g。そこで最大 10 倍分の負担がひとつのトラスにかかることを想定して 2300 g 載荷し、形状変化を観察した。



2300 g載荷しても、折形は圧壊することなく、除荷後にはＰＰバンドの復元力で形状回復した。このことから最下段の折形が圧縮で破断するまでには余裕があるといえる。これを考慮してパネルを作成した。

11 Study "折形"の引張実験

ホッタ鋲が引張荷重でいつ外れるのか確認します

接合に用いたホッタ鋲が外れる引張荷重を確認するために左のような実験を行った。

重りを増やしていくと、8000g（20 個分）でホッタ鋲が外れたが、十分な余裕があるといえる。

樂会場まで包装資材を入手中。

茶道口からお点前が見える

躙り口から樂やかに包まれた茶室へ

樂やかに包まれた小春日和の茶室